

## 国立公園が持つ精神的・文化的重要性

エドウィン・バーンバウム



© AP Images/Eric Risberg

カリフォルニア州マリナー郡にあるミューアウッズ国立公園の樹木は、地球上に残る最後の原生林のひとつにある。このコースト・レッドウッドは世界で最も背の高い生物である。自然保護活動家ジョン・ミュアにちなんで名づけられた同公園は、2008年に100周年を祝った。

国立公園は、単なる名所・旧跡や記念建造物、保護地域ではない。また、山や森林、湖、あるいは珍しい地質が見られる場所でもない。国立公園は米国の精神の一端を表している。

エドウィン・バーンバウム博士は、山岳協会 (Mountain Institute) の Sacred Mountains Program (「神聖な山々」プログラム) を指揮しており、“Sacred Mountains of the World (世界の神聖な山々)” の著者でもある。本稿は、同博士が執筆に参加してアメリカン・パーク・ネットワークから出版された “America’s Best Idea—A Photographic Journey Through Our National Parks (米国が生み出

した最高のアイデア——写真で旅する私たちの国立公園)” (2006年初版、2008年第2版) からの抜粋である。

**国**立公園に残されている素晴らしい自然の景観や地形には、大きな驚きの念を抱かせる力がある。霧の中に浮かび上がる幽玄な山の頂、ゆったりと空を滑るように飛ぶワシの姿、うっそうと茂る原生林に斜めに差し込む明るい日の光——こうした美しい自然を目にすると、我々は言いようもない感動を感じる。国立公園は訪れる者に日常生活を忘れさせ、我々には制御不能な力に支配された、神秘と輝きに満ち

た荘厳な世界へといざなう。多くの人々は、日々の様々な雑事から逃れ、より深く永続的な価値のある何かを体験しようと国立公園を訪れる。実際、手つかずの自然が残るこうした保護区域は、魂をリフレッシュさせる場所であり、そこで我々は自らの存在の原点に立ち返り、新たな始まりに向けて新鮮な気持ちを取り戻すことができるのである。

国立公園は、地質学的、生物学的な多様性と知識の宝庫としての科学的価値だけでなく、米国国民にとって大きな精神的、文化的重要性を持っている。魂をリフレッシュさせる霊的な場所として自然をとらえる考え方は、1916年の国立公園局の創設において主要な役割を果たした。例えば、初期の自然保護活動家であったジョン・ミュアがカリフォルニア州にヨセミテ国立公園を創設しようと尽力した主な動機は、ヨセミテ溪

谷を「人の手でつくられたどの神殿よりもはるかに見事な神殿」として保護することであった。国立公園保全協会(NPCA)の調査によれば、国立公園に対する国民の支持を喚起する上で最も説得力のあるメッセージは、国立公園は「地球上で最も美しく荘厳で畏敬の念を起こさせる場所を我々に与えてくれる」というものである。

国立公園の美しさと壮大さは、すばらしい美術作品や写真、文学作品や音楽作品を生み出してきた。19世紀後半、画家トーマス・モランがワイオミング州のイエローストーン国立公園を、アルバート・ピアスタットがヨセミテ溪谷を印象的に描き出し、これらの素晴らしい場所に国民の注目が集まることとなった。悠久の時を経た木々や雄大な山々を写し出した写真家アンセル・アダムズの写真は、国立公園に残され



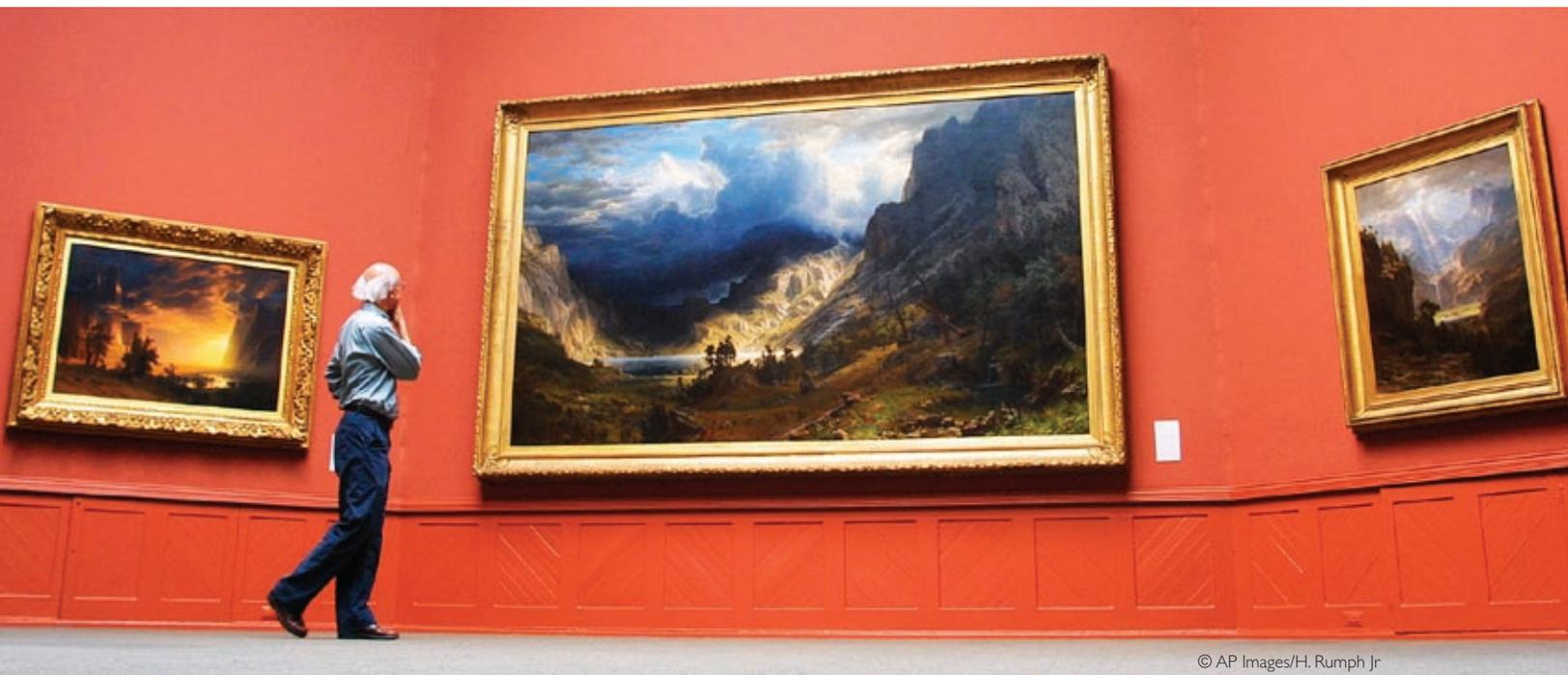
NPS, Nez Perce National Historical Park

2005年のトレイルライドで、ネズパース国立歴史公園内の38カ所の名所や史跡のひとつ、ビッグ・ホール国定戦跡に戻ってきたネズパース族の人々。アメリカ・インディアンのネズパース族は、先史時代から、現在のアイダホ州、オレゴン州、モンタナ州、ワシントン州にまたがる地域で暮らしてきた。今日、ネズパース族の人々は、自分たちの歴史や文化と関連する場所や物語、遺物の保護・保全に国立公園局と連携して取り組んでいる。

た、時間を超越した美しさを我々に喚起させる。また、アリゾナ州のグランドキャニオンを訪れた作曲家ファーディ・グロウフェは、その風景に心を強く打たれ、この感動はとて言葉では表せないと感じた。そして、音楽を通じてしか自分の体験を人に伝えることはできないと考え、代表作となる「グランドキャニオン組曲」を作った。

国立公園は、伝統的遺産とアイデンティティを表す文化的象徴の役割を果たしている。多くの人々にとって、国立公園は

国立公園には、米国の重要な価値観や夢が秘められている。例えば、アラスカ州のデナリ国立公園やグランドキャニオン国立公園の高い峰や深い峡谷は、米国賛歌「アメリカ・ザ・ビューティフル」がたたえるアメリカ合衆国の荘厳さと雄大さを具現している。国立公園制度の下で保護されている広大な風景や解き放たれた場所は、米国の文化と歴史の中核にある自由と独立の探求を我々に思い起こさせてくれる。例えば、グランドティートン国立公園（ワイオミング州）、ノースカスケード



© AP Images/H. Rumph Jr

フィラデルフィアのペンシルベニア美術アカデミーに展示された19世紀後半の画家アルバート・ピアスタットの作品。米国西部の自然の素晴らしさに国民の注目を集め、その保護を目的とした国立公園の創設への支持を確立する一助となった。

建国当初の米国の本質と開拓者精神を残す場所である。親たちは、この国の価値観や理想、起源が大切に守られている名所・史跡に親しませようと、子どもたちを国立公園詣でに連れて行く。NPCAの調査で、説得力のあるメッセージとして上記に僅差で続いたのは、「国立公園は我々が子どもたちに残す遺産である」というものであった。

イエローストーン、ヨセミテ、グランドキャニオンなどが国全体を代表する象徴となっているのに対して、ワシントン州にあるレーニア山の氷河に覆われた山頂は、太平洋岸北西部を連想させる象徴である。また、最も訪問者の多い国立公園であるグレートスモーキー山脈国立公園の魅力の多くは、アパラチア人やチェロキー族の文化との結びつきから生まれている。

国立公園（ワシントン州）、ランゲル・セントエライアス国立公園（アラスカ州）の高い山々や人里離れた荒野は、人格形成と米国の「成せば成る」精神を養うのに役立つ挑戦と冒険の機会を与えてくれる。多くの人々が、レッドウッド国立公園（カリフォルニア州）、ロッキー山脈国立公園（コロラド州）などの原生林や閑静な場所を自然の大聖堂として訪れ、心静かに瞑想し、自分は何者なのか、人生で大切なものは何かを再確認しようとする。

アメリカ・インディアンは、ハワイ州、アラスカ州、サモアの先住民の文化と同様に、自分たちの最も深い精神的価値観の多くを、現在では国立公園内にある土地と関係のある神聖な場所や信仰、習慣や伝統と結びつけている。コロラド高原に

住むホピ族などの部族は、謎に包まれた祖先であるアナサジ族の断崖住居で儀式を行うために、メサベルデ国立公園を巡礼に訪れる。チェロキー族は、ノースカロライナ州とテネシー州にまたがるグレートスモーキー山脈を先祖伝来の土地と考えており、クリングマンズ・ドームなどの丸みを帯びた山頂を、救いと癒しの場、命を与える川の源と見なしている。ハワイ先住民は、ハワイ火山国立公園のキラウエア火山の溶岩や植物を、燃えたぎるエネルギーで生命と豊穡をもたらす火山の女神ペレの住む聖域であり、その体であるとして崇拝している。ブラックフィート族やラコタ族などの平原インディアンは、グレイシャー国立公園(モンタナ州)やバッドランズ国立公園(サウスダコタ州)などにある儀式の場でサンダンス(太陽の踊り)を踊り、ビジョンクエスト(アメリカ・インディアンの成人の儀式)に出る。国立公園局は、北米最高峰のマッキンリー山に対するコユーコン語の伝統的な名称を尊重して、アラスカ州のマッキンリー山国立公園をデナリ国立公園および保護区に改称した(「デナリ」は「偉大なもの」を意味する)。アメリカン・サモア国立公園は、サモア人の「聖なる大地」であるサモアの慣習や信仰、伝統を守る役割を果たしている。

最後に、国立公園は米国でも世界でも、あらゆる文化の人々にとって特別な価値と魅力を持っている。例えば、太平洋岸北西地区に住む日系米国人は、レーニア山を故国日本の象徴である神聖な火山と結びつけ、「タコマ富士」と呼んでいる。アフリカ系米国人は、ヨセミテ国立公園やセコイア国立公園などの国立公園を初期の頃を守る役目を果たしたアフリカ系米国人の陸軍兵士、バッファロー・ソルジャーに特別な誇りを抱くことがある。世界中の人々が、自分たちの国に同様の保護区域を設定するための知識を得ようと、米国の国立公園を訪れる。米国が生み出した「最高のアイデア」は、世界各地の特別な場所を保護するためのモデルとなっており、世界の文化に大きく貢献している。

---

本稿に述べられている意見は、必ずしも米国政府の見解あるいは政策を反映するものではない。

# 米国の物語そのもの

ケン・バーンズ、デイトン・ダンカンへのインタビュー



© AP Images/David Jordan

ハワイ火山国立公園にある活火山のひとつ、キラウエア火山から流れ出る溶岩。同公園を訪れた人々は、7000万年におよぶ火山活動の所産を観察することができる。この火山活動によって、現在では独特の生態系と文化が存在する島々が形成された。海面から標高4200メートル近くに至る範囲に広がる同公園には、7つの生態区分が存在する。

ケン・バーンズとデイトン・ダンカンのドキュメンタリー映画制作チームによる米国の国立公園をテーマにした12時間の映画の制作が、現在、最終段階に入っている。国立公園局職員に対する試写会を行うためにワシントンD.C.に滞在していた2人に、Eジャーナルのアレクサンドラ・アブード (Alexandra Abboud) が話を聞いた。

ケン・バーンズは、米国で最もよく知られているドキュメンタリー映画制作者のひとりであり、主に歴史上の出来事に焦点を当てたその作品は幅広い賞賛を受けている。バーンズの映画は全米公共テレビ放送網 (PBS) にも登場し、多くの視聴者を得ている。“The Civil War (南北戦争)” は、米国の公共テレビ放送の歴史において最も高い視聴率を記録したシ

リーズとなった。

デイトン・ダンカンは、“Out West: A Journey Through Lewis & Clark’s America (米国西部：ルイス&クラークの米国を巡る旅)” “Miles From Nowhere: In Search of the American Frontier (辺境の地：米国のフロンティアを求めて)” など9作品がある作家であり、映画制作者でもある。映画 “The Civil War,” “Baseball (ベースボール),” “Jazz (ジャズ)” をバーンズと共同で制作した。

質問：あなた方はこれまで、“The Civil War” “Jazz” “Lewis and Clark: The Journey of the Corps of Discovery (ルイス&クラーク：探検隊の旅)” など、米国の国家と文化の歴

史において重要な位置を占めるテーマを扱った映画を制作してきました。国立公園も、国家の歴史における重要な何かを表すテーマなのではないでしょうか？

バーズ：そのとおりです。私たちは映画のテーマを選ぶ際、全体が部分の合計より大きいものを探します。それによって、米国の物語に内在している矛盾と可能性を同時に映し出



映画制作者のデイトン・ダンカン（左）とケン・バーズ。編集室で。

すことができます。私たちが一連の作品で焦点を当ててきたのはその点だと言えます。私たちは、空間に関する次のような問いを追求してきました——「我々と米国の国土との関係は、我々国民にどのような輪郭を与えているのか?」。私たちは、さまざまな文化が衝突するとつもない「交差点」である西部の歴史の中で、この問いを探求してきました。“Lewis and Clark” や、初の自動車による全米横断を描いた映画“Horatio's Drive(ホレイショの自動車旅行)”で探求したのもこのテーマです。そして、この6年間は国立公園の歴史に取り組んでいます。米国人がこの土地を保護する話には、米国の物語そのものがあるからです。

ダンカン：国立公園制度は、ベースボールやジャズと同様に、米国の発明品です。1872年にイエローストーンが国立公園に指定されましたが、都市公園や公共庭園などではなく、広大な土地を将来の世代のために保護・保全すべきであるという決定を連邦政府が下したのは、人類史上それが初めてでした。国立公園は米国のアイデアであり、米国が作り出したものなのです。私たちの映画では、その物語を最初から追っ

ていきます。自由の概念と同じように、国立公園は米国の最大の輸出品のひとつとなりました。極端な愛国主義者だと思われたいくはありませんが、私はそれを大変誇りに思っています。

質問：国立公園制度は、「米国が生んだ最高のアイデア」と呼ばれています。国民に楽しんでもらうため、またその土地自体のために、このような方法で土地を保護する決定をどの国より

も先に下したからです。あなた方は、国立公園制度を米国の重要な輸出品だと考えていますか？

バーズ：もちろんです。私たちは、この国をひとつにまとめあげている自由の概念こそが最高のアイデアだと考えていますが、建国後に生まれた最高のアイデアを挙げるとしたら、国立公園ならばそう呼ぶのにふさわしいでしょう。200近い国々に4000近くの国立公園があるという事実は、このアイデアがいかに大きな成功を収めているかを物語っています。今、ここに座って話をしている、私たち米国国民には、世界一雄大な山並み、地球上で最も壮大な峡谷、世界一大きく高く古い樹木があります。それは国民にとってすばらしい財産です。

ダンカン：国立公園は民主主義の表れです。つまり、これらの特別な場所を大富豪や肩書のある人々、貴族の領分にはいけないのです。この国の最も壮大な場所は皆のものなのです。皆が責任を持ち、皆が利用できるものです。それが、世界一背の高い樹木、最も雄大な滝、最も壮大な峡谷といった風景に適用される民主主義の定義です。それが可能であった国は、民主主義の概念に基づいて生まれた国なのです。

バーズ：そのような民主主義の力がなければ国立公園はできなかったでしょう。

ダンカン：私たちの映画がたたえているのはその点です。

質問：国立公園制度の下にある公園や記念建造物、名所や史跡からは、民主主義、自然、先史時代、そして国家の歴史における栄光の時と屈辱の時についての物語を知ることができます。そうした数々の物語のうち、あなた方がこの映画で伝えようとしているのはどのような物語ですか？

バーズ：私たちは、現在58カ所ある自然公園の創設に主な焦点を当てており、それらの自然公園がどのように誕生したかに関する非常に複雑で劇的な物語を追っています。と



Library of Congress, Prints & Photographs Division

米国の自然保護活動家ジョン・ミュア。「すべての人々に、パンと同じように美が必要である。遊んだり祈ったりする場所、自然の力によって身も心も癒され元気づけられるような場所が必要である」と述べている。

りわけ、それは人々をめぐる物語です。ありとあらゆる背景の人々が、保護してもらいたいと考える特別な場所に政府の関心を半ば強引に向けさせ、多くの場合、そのために生涯を捧げました。

ダンカン：どの国立公園の石をひっくり返しても、見つかるのは活発な民主主義です。それぞれの国立公園に、「小さな」民主主義が最高の力を発揮した物語があります。「この場所を保存しよう」と言って人々が団結し、しばしば、よく言っても無関心としか言えない連邦議会を説得して、その場所を保存・保護させたのです。民主的な考えは抽象的なものですが、いつでも個々の米国人や少数者のグループが民主主義という手段を使い、子孫のためになることを成し遂げてきたのです。トマス・ジェファソン（第3代大統領で独立宣言の起草者）も、これを聞いてほほ笑んでいることでしょう。

バーズ：私たちは、ジョン・ミュア1やテディ（セオドア）・ルーズベルト2など、誰もが知っている人物も追いますが、そのほかにも、さまざまな背景や民族性、人種、性別、出身国の非凡な人物を数十人ご紹介します。映画では、彼らがその目的のためにどのように生涯を捧げたか、彼らの行動が今話しているこのより大きなアイデアとどのような接点を持ったのかを伝えます。

ダンカン：国立公園制度には史跡の保存は含まれていませんでしたが、1930年代になって、国立公園局——当時は、まだかなり若い機関でした——が、私たちの年代記的、歴史的な物語においてこのアイデアの誕生と進化をたどる場所、例えば戦場やリンカーン記念館、ワシントンD.C.のナショナル・

モール、自由の女神像などを保存する役割を担うことになりました。この種の史跡を含むことで、国立公園は米国そのものを象徴するようになったのです。米国という概念そのものを取り込んだわけです。

映画では、インディアンシャイアン族の虐殺が起きたワシタ戦場国定史跡、日系米国人の強制収容所の跡地であるマンザナール国定史跡、リトルロックのセントラル高校3、そしてオクラホマシティー4やシャンクスビル5に至るまでの場所で、次の点を強調しています。このアイデア——将来のための保存に国が積極的に取り組むという考え方——がついに、悲しむべき出来事が起きた場所までも、それが二度と起きないようにという意味で包含できるようになったのだと。

バーズ：私たちの映画、そして国立公園をめぐる体験において非常に重要な事柄のひとつは、そこに歳月という要素が付加されている点です。私たちは国立公園を、最近の歴史的出来事やグランドキャニオンの形成のような大規模な地質学的事象などの形で、歳月が見事に表現されたものと考えています。しかし、映画の中でも多くの人々が指摘しているように、肝心なのはこれらの場所を体験したということだけではなく、誰と体験したかなのです。国立公園をめぐる体験は、多くの場合、母親や父親が連れて行ってくれたという事実に影響を受けており、そのため自分の個人的な心理と深く結びついています。そして、大人になって今度は自分が子どもたちを連れて行き、国立公園に具現化される「場所を愛する心」を、歴史家ウィリアム・クロノンが言うところの「親密な伝達 (intimate transmission)」を通じて次の世代に伝えていくのです。

欧州の大聖堂を訪れると、人々が3世紀をかけて手作業と献身的な働きで[それを] 建立したことに感動を覚えますが、それと同じように、国立公園は、ひとりひとりが感知できないようなわずかな厚みを物語に加えているような感覚を我々に与えます。なんと素晴らしいことでしょう。

質問：数カ月にわたる撮影の間に訪れた場所の中で、一番感動したのはどこですか？

バーズ：私たちはとても運が良く、友人や仲間として、多くの場所で数々の珍しい体験をすることができました。長女とグランドキャニオンで川下りをし、谷底から上に登って、頂上で爽快感を味わいました。また、アラスカ州デナリ[北米最高峰を擁する場所]の奥地に入ったことも心に残っています。アンカレッジから車で4時間かけて入口に到着し、ほとんど舗装されていない道路をさらに約145キロ進んで、最奥地にたどり着きました。私たちは、雲に覆われたデナリ山を低速度撮影す



National Geographic/Getty Images

6200メートル近い高さを誇るマッキンリー山は、北米最高峰であり、アラスカ州のデナリ国立公園の主役である。240万ヘクタール以上にわたって広がるその荒野には、ムース、カリブー、オオカミ、グリズリー（ハイイログマ）が生息している。考古学者らにより、1万2000年前にこの地にアラスカ先住民が存在していたことを示す遺物も見つかっている。

るためにカメラを設置しました。そして、辺りを虫が飛び交い、サンドイッチしか食べるものがない中で3時間近くを過ごした頃、デナリ山が突然姿を現したのです。デイトンは息子を連れて来ていましたし、長年私たちと仕事をしているカメラマンも一緒でした。奇跡のようでした。

ダンカン：このプロジェクトのいいところは、この国の最も壮大な場所を訪れるという任務を私たちに与えてくれるところです。夜から昼への変化を観察するためには、そこに日の出45分前にいなければなりません。自然界では、それはこの上もなく神秘的な瞬間です。私たちはいいショットを撮ることに集中し、かなりの時間、ただひたすら日の出を静かに待ち続けます。そして神秘的な光が差すと、その時が到来するのです。それはもう最高です。

家族との旅行は、その神秘的、物理的、精神的な瞬間を、息子や妻子と味わうことで一層大きいものにします。父の日に息子とグランドキャニオンをハイキングするほど素晴らしいことはありません。ハワイで息子和夜明け前の溶岩原に入り、日の出や、溶岩の滝が海に流れ込み新しい大地をつくり出すのを眺める——それは決して忘れることのできない体験ですし、息子にも忘れずにいてほしいと思います。

注記：

1. ジョン・ミュア（1838～1914年）は、当時の米国を代表する自然保護活動家のひとりと考えられている。カリフォルニア州のヨセミテ渓谷の保護を提唱したほか、著名な環境保護団体として今日も存続しているシエラクラブの創設者でもある。

2. セオドア・ルーズベルトは、1901年から1909年までアメリカ合衆国の大統領を務めた。その任期は1916年の国立公園局の創設より前であったが、彼の在任中に、連邦政府は国有林や国定記念物の指定を大幅に増やした。

3. アーカンソー州リトルロックのセントラル高校は、米国の公民権運動史上に残る出来事の舞台となったところであり、現在は国定史跡になっている。1957年、同校へ黒人生徒9人が入学したが、これに反対する群衆が抗議を行った。ドワイト・アイゼンハワー大統領は軍隊に命じてこの生徒たちを守らせ、学校における人種分離廃止を支持する連邦最高裁判所判決の執行に向けて連邦政府の決意を示した。

4. オクラホマシティー国立記念センターは、1995年にオクラホマ州の州都オクラホマシティーで起きた連邦政府ビル爆破テロの犠牲者や救助隊員に敬意を表すものである。このアルフレッド・P・マラー連邦政府ビルの爆破テロは、2001年9月11日以前に米国で起きた最も大きなテロ攻撃であり、この事件で168人が死亡、800人以上が負傷した。

5. ペンシルベニア州ジャンクビルは、2001年9月11日の航空機墜落事件を追悼する「93便国定記念建造物（Flight 93 National Memorial）」の設置が進められている場所である。93便の乗客は自らの命を犠牲にして、航空機を乗っ取ったハイジャック犯を取り押さえようとし、ワシントンD.C.への攻撃を阻止した。同機は田舎町ジャンクビルに墜落し、乗っていた44人が死亡した。

本稿に述べられている意見は、必ずしも米国政府の見解あるいは政策を反映するものではない。